

# 動脈硬化の早期発見に 超音波検査で血管の状態を確認しましょう

臨床検査室 臨床検査技師



臨床検査技師

臨床検査室では、採血、検体検査(生化学・血液・免疫)、生理機能検査(循環機能・呼吸機能・超音波検査)、輸血検査、細菌検査、病理検査、内視鏡検査など、夜間休日問わず24時間対応で検査業務を行っています。また、内部精度管理(同一検体の測定値がいつも一定であるかどうかを評価)や外部精度管理(当院の測定値が他施設の測定値と同一性があるかどうかを評価)にも注力しており、検査の品質と精度保証を追求しています。

さらに、自己研鑽とともに教育指導にも力を入れ、専門性の高い認定資格の取得に取り組んでいます。

**Q.1** 超音波検査はどのような検査ですか

人の耳では聞こえないほど高い周波数の音を体内に送り、その反射波によりできた画像で臓器の大きさや形状を調べる検査です。

超音波は体への負担が少なく、検査の費用はCT検査やMRI検査と比べて安価です。

**Q.2** 頸動脈超音波検査はどのような検査ですか

頸動脈は心臓からの血液を脳へ送る血管です。首の部分で脳へ血液を送る「内頸動脈」と、顔へ血液を送る「外頸動脈」に分岐します。この分岐部は動脈硬化(動脈の血管が硬くなって、弾力性が失われた状態)になりやすい部位と言われており、動脈硬化によって頸動脈が細くなったり詰まったりすると脳へ十分な血液を送ることができなくなります。

頸動脈超音波検査では、血管壁と血管の内側の状態を観察して血管壁が厚くなっていないか、血管壁にプラーク(脂肪の塊)や血栓がついていないかを確認します。頸動脈にプラークがあるということは、身体のほかの動脈にもプラークがあるかもしれません。

頸動脈超音波検査は動脈硬化を早い段階で発見して、少しでも早く進行を食い止めることに役立ちます。

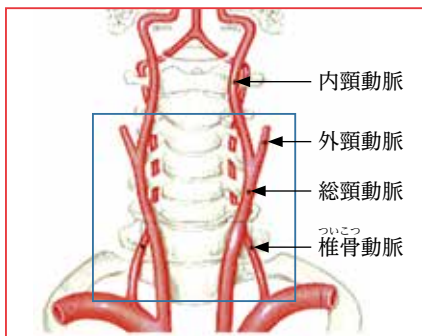
**Q.3** 頸動脈超音波検査はどのようにして行いますか

モニター画面を見やすくするために部屋の照明を暗くして、ベッドに仰向けの状態で検査を行います。プロップと呼ばれる機械を押し当てただけで痛みもありません。

頸動脈超音波検査はこんな人に必要です

- ・意識障害、片麻痺、頸動脈雑音、脈拍減弱、頭痛、めまい、血管痛などがある人
- ・糖尿病、脂質異常症、高血圧などの生活習慣病があり動脈硬化の進行度評価が必要な人
- ・冠動脈疾患、閉塞性動脈硬化症、大動脈瘤などの動脈硬化性疾患に対する治療のリスクを評価することが必要な人

気になる症状がある場合、かかりつけ医からの紹介状をお持ちの上、お気軽に当院までご相談ください。



頸動脈超音波検査では、□の部位を観察できます。